

平成 25 年度 第 4 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 26 年 1 月 23 日（木）10：00～11：30

2 開催場所

札幌市役所 14 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、小山委員、山下委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局契約管理担当局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 8 名

4 次第

(1) 開会

(2) 財政局契約管理担当局長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 報告事項

ア 工事等発注状況について（平成 25 年度 11 月末）

(5) 平成 25 年度の意見書について

(6) その他

(7) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

ア 工事等発注状況について

【小山委員】 下水道工種で不調・不落が多い。

【札幌市】 都心での工事の応札状況が特に厳しい。原因としては、日中の交通量が多いことなどが考えられる。

【小山委員】 労働者が東北の復興工事に行っていることも考えられるか。

【札幌市】 下水道に限らず、全体的に行っていると聞く。

【蟹江委員長】 建築工事などは官民比率だと民が多く、不調になりやすい傾向にあると思うが、官比率の高い下水道や舗装工事でも不調が増加しており、人手や機械不足が

ひっ迫している印象を受ける。企業が仕事を確保した年度の後半になると、不調・不落件数は増えるのではないか。

【札幌市】 年度の前半はほとんど発生していないが、後半になると多く発生している。

【山下委員】 市は入札関係の情報を広く公開しているが、それによって積算が簡単になり、くじ引き発生件数が増加することになる。それにも関わらず、広く情報公開をすることのメリットは何か。

【札幌市】 積算能力の高い企業と契約できることと考えている。

【山下委員】 単価を全て公表すると、積算能力はあまり必要なくなってしまう。単価を算出すること自体が積算能力ではないかと思う。

【札幌市】 本市としては、公表可能な情報は公表することとしている。情報の透明性に関しては、今後もこの方針で考えている。

【蟹江委員長】 難易度の高い、技術力の差が生じるような工事の場合には、完全に透明化するのではなく、工夫の余地を反映できるようにすることで、品質の良いものが安く手に入る可能性がある。一方で、技術力に差が生じにくい測量や地質調査の場合には、情報を隠しても本質的な差になりにくく、かえって情報漏えいなどの不正に繋がることも考えられる。ケースバイケースだが、測量や地質調査については、くじ引きが増加するものの、透明性を高めることでも良いと思う。

【岡田委員】 積算能力で差が生じないのであれば、より成績が重視されていくと思う。

【蟹江委員長】 成績が良かった企業にインセンティブを与える制度は、望ましいと思う。成績を重視していくと、その評価に対する説明責任が求められ、事務負担が大きくなることから、実務のバランス等を考えて実施する必要がある。

【札幌市】 成績点については、企業側から説明を求めることができる。また、自己採点制を試行しており、双方の点数を比較すると、それほど点数に差はない状況である。

【蟹江委員長】 次の受注に影響が大きくなると、双方とも評価にシビアになる。客観性や説明責任を確保しようとする、手間がかかるが、考え方としては良いと思う。

(2) 平成 25 年度の意見書について

【蟹江委員長】 今年度の意見書案としては、次の二点である。

一点目の「適切な競争の促進について」に関しては、前提として、不調・不落件数の増加や人手不足、労務単価の上昇といった状況に、入札制度として対応すべきかどうかといったことがある。これらが一過性の状況である可能性を踏まえ、具体的な内容にはせず、優良企業への受注機会確保の調査、研究という表現にしている。

二点目の「公共工事における品質確保について」に関しては、成績重視 2 年型を継続実施して、評価することが必要であると考え。また、若手技術者は重要なキーワードであり、企業の健全な経営の部分にも関わってくることである。産業界の活性化を見据えると、若手技術者が入ってきて年齢的なバランスをとらなければ、健全な発展は見込めないと思う。

【岡田委員】 二点目に関して、成績が良好な企業は公表されているか。

【札幌市】 成績点については、公表している。また、優良表彰制度がある。

【岡田委員】 成績点の根拠を周知することにより、全体のレベルアップに繋がると思う。

【札幌市】 評価項目については全て公開し、自己採点制も試行しているところである。

【岡田委員】 表彰制度では、若手技術者など個人の表彰はあるのか。

【札幌市】 個人表彰としては除雪業務の除雪センター長表彰があるが、一般の工事では企業の表彰のみである。

【山下委員】 一点目の提言は、二点目の成績重視型などに繋がるのではないか。

【蟹江委員長】 成績重視型も一つではあるが、それだけでなく、いろいろな方式を引き続き検討する必要があると考える。くじ引きに関しても、発生件数が多いことだけを見て、表向き減らすことが、優良な企業の受注機会を確保することになるとは言い難い。

【小山委員】 将来を見据え、都市計画などを検討する必要があるものと思う。

【札幌市】 戦略プランとして計画を策定しているが、予算の関係もあることから具体的な行程を示すことは難しい。建設業界からは、将来のめどがたたないと企業の人材確保や投資につながらないという御意見を頂いており、大きな課題であると考えている。

【小山委員】 維持や修繕などは、今後も引き続き実施していかざるを得ないが、公共事業で新しく何かを作ることは減少していく。魅力ある都市づくりをどのようにしていくかを考える必要があると思う。

(3) その他

意見書について、文言修正のうえ提出することを決定した。